

加古川市立義務教育学校 両荘みらい学園



みらいへつなぐ思い それは…「校訓」

加古川市立義務教育学校 両荘みらい学園
校長 神吉直哉



両荘中学校が大切にしてきた理念は、校訓にある「自主創造」「共励切磋」「感恩奉仕」の考え方です。

「自主創造」は、主体性のある自己（アイデンティティ）を創りあげてほしいとの願いを「共励切磋」はその字のごとく、ともに励まし、ともに磨き合ってほしいとの願いを、そして「感恩奉仕」は 生かされていることへの感謝の心と社会へのボランティア精神を忘れないでほしい との願いが込められています。開校より76年、戦後の食糧難、高度成長期、第二次オイルショック、阪神淡路大震災、そして、新型コロナウイルス感染症、ウクライナ情勢を含めた不安定な国際情勢など、まさしく激動の時代を超えて、現在、先行きが見通せない VUCA 時代が到来しています。そのような時代だからこそ、将来の夢や希望に向かって、主体的に課題を捉え・解決し、自己実現を図りながら、他に感謝し、協調することで未来を切り拓くことが必要となります。まさしく、その能力は、本校の三つの校訓がめざす姿、そのものだと改めて思います。

両荘中学校は、新しく「義務教育学校両荘みらい学園」になりますが、校訓は変わりません。不易と流行といわれることがありますが、私たちが大切にしてきた校訓は、いつの時代にも通用する不易なものとして、これからもしっかりと歩んでいきます。

新しい校舎の教室は、最新の設備とともに、加古川市初の小中一貫校なので同じ学校の中に「9年1組」と「5年2組」のプレートが掲げられていました。

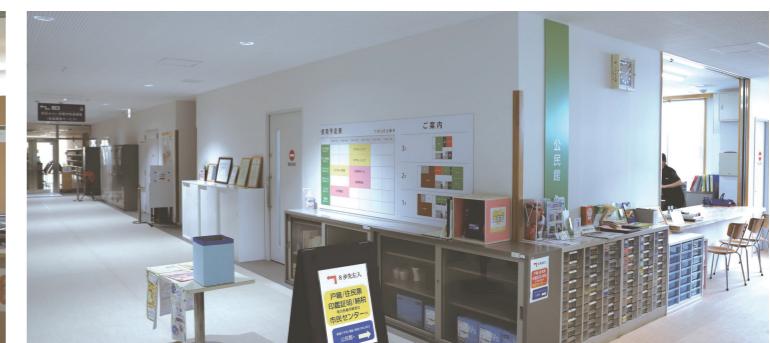
体育館では、両荘中学校70周年で同窓会より贈呈した緞帳（舞台幕）の前でバスケットボール部が練習に励んでいました。

両荘中学校の歴史を引き継ぎながら、新しい学校で未来へと羽ばたいてほしいと思います。



両荘公民館

学校敷地内に両荘公民館を移転。両荘市民センター、児童クラブを併設し、学校図書館を地域に開放するなど、学校と地域との新しい関係が図られていきます。



両荘中学校最後の卒業式

令和6年3月15日。両荘中学校として最後となる第76回卒業証書授与式が執り行われ、両荘中学校校歌も歌われました。

